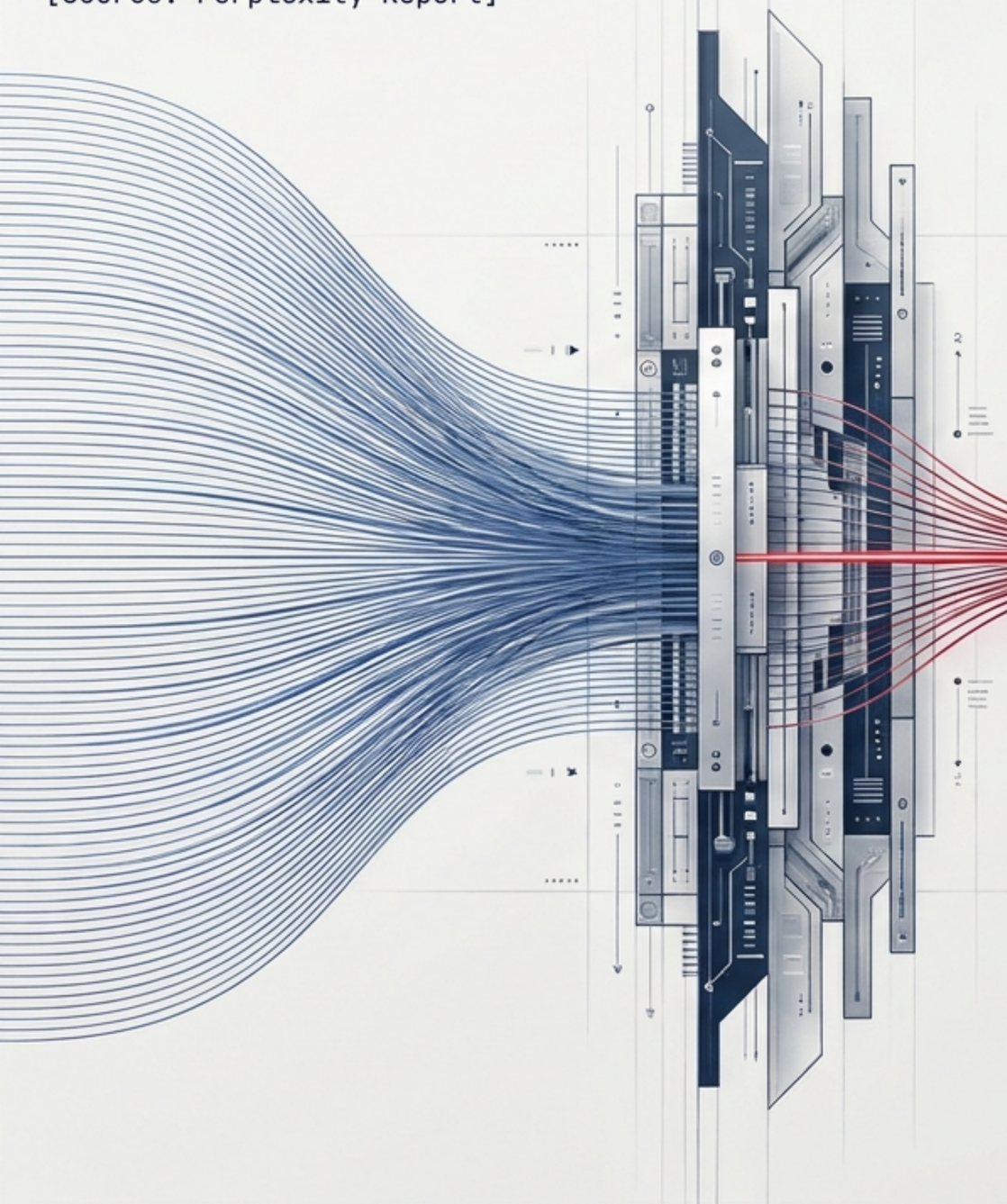
[Date: 2026/11/01 Data Baseline]
[Source: Perplexity Report]



ソフトバンクグループ 生成AI特許戦略の全貌

万単位の大量出願と1.4%の登録率に隠された「防衛と超高速権利化」のメカニズム

Gemini Notebook

Executive Dashboard: 4つの異常値が示す「AI知財包囲網」

国内公開数 圧倒的1位

22,855件

（2026年10月末時点。2025年も10,400件で1位を独占）

世界首位のAI特許網

約3,000ファミリー

（WIPO生成AI特許調査1位。TencentやPing Anを凌駕）

極端に低い登録率

1.4%

（第1波＋出し直し分 9,922件中、登録わずか143件）

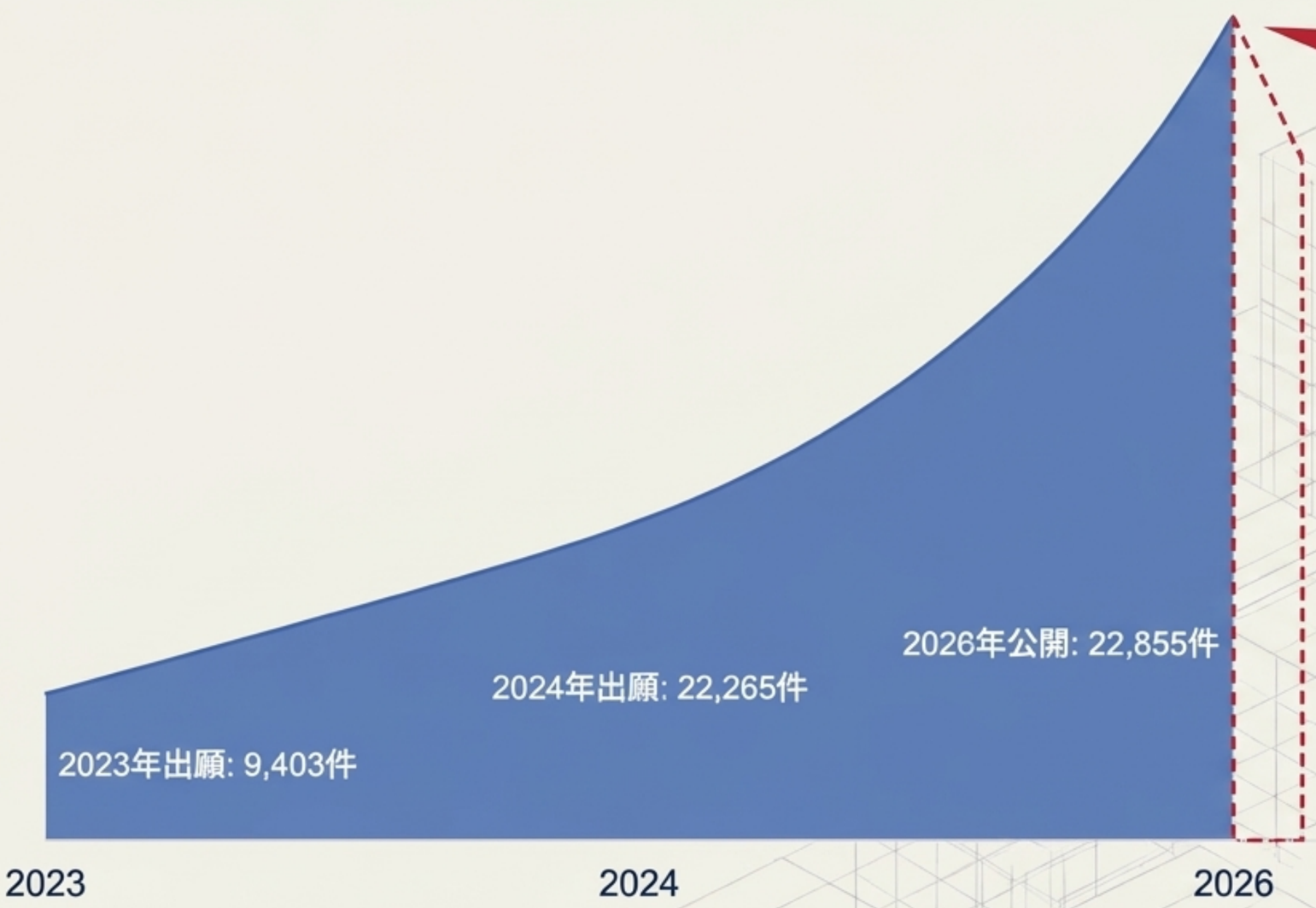
米国市場への急展開

全出願人中1位

（2026年7-10月の米国AI公開出願 566件へ急増）

Gemini Notebook

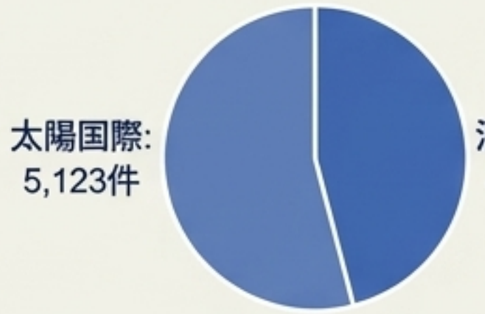
The Volume Explosion: 日本の特許統計を歪める巨大な波



日本全体の特許出願急増: 2025年12月単月で82,197件（前年同月比168.9%増）。SBGによる未公開の巨大な波の可能性。

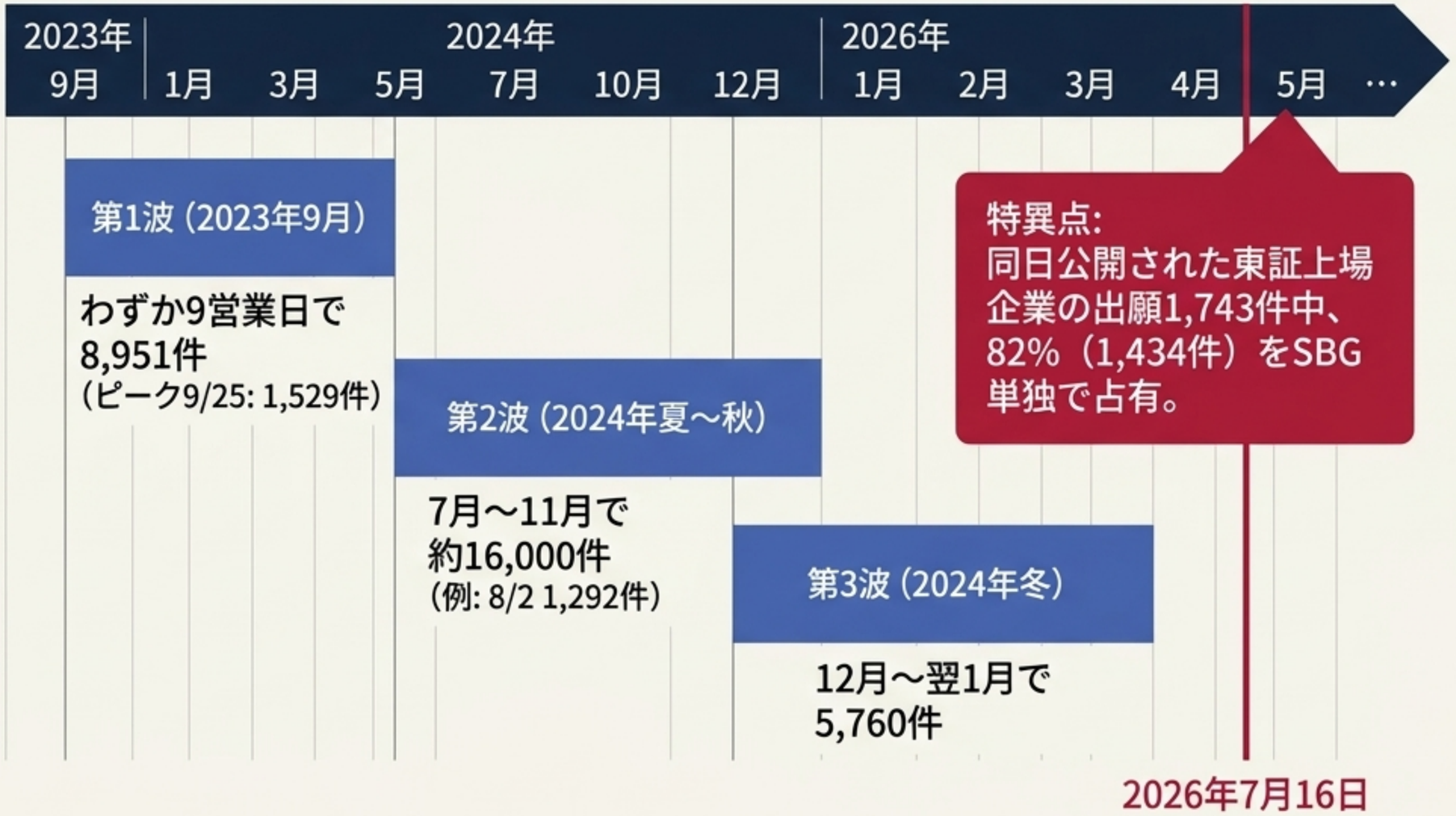
実行体制（Execution Infrastructure）

2026年4月以降の公開分（9,464件）を処理する2大特許事務所



Gemini Notebook

The Wave Strategy: 計画された波状攻撃のタイムライン

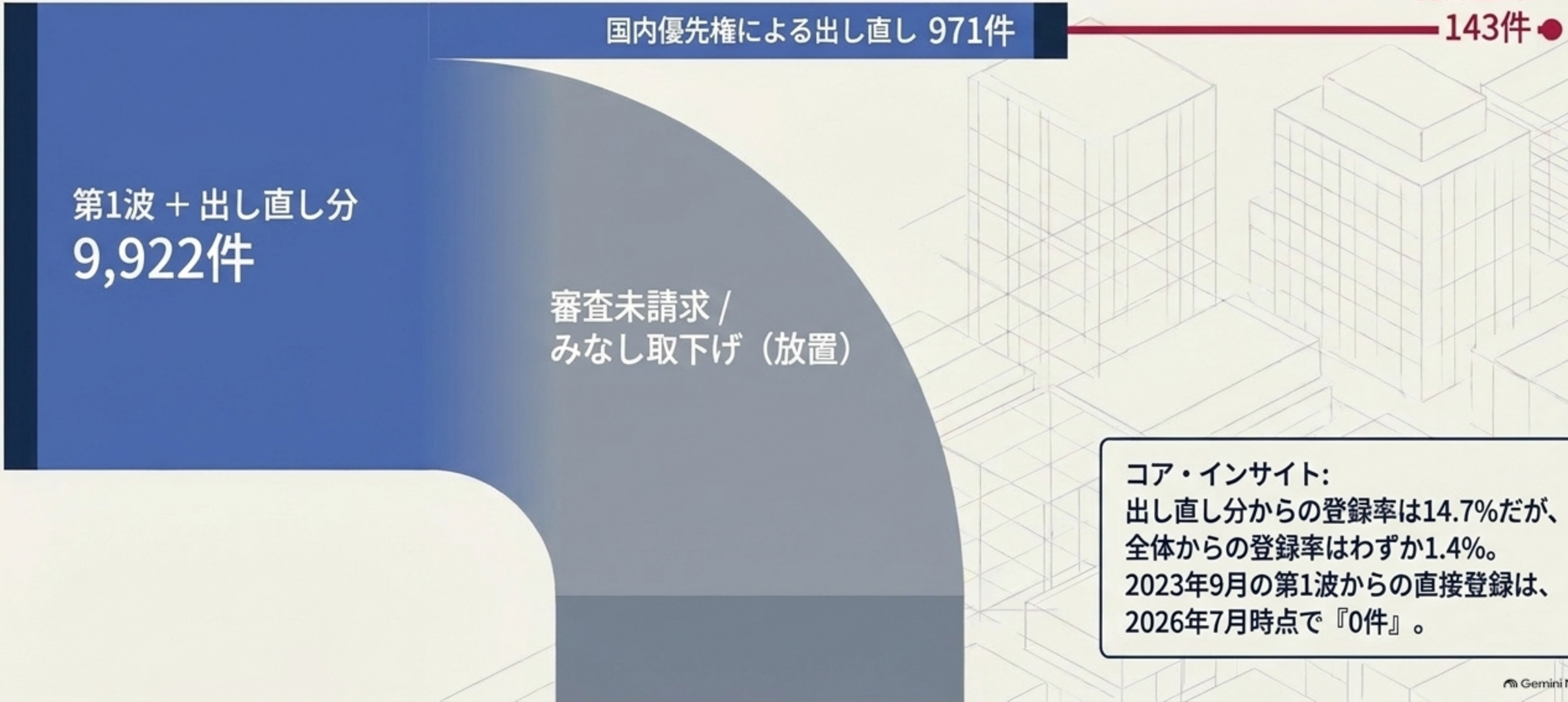




The Anomaly:
発明の名称がすべて一律で「システム（System）」。
意図的な情報隠蔽によるブラックボックス化。

Gemini Notebook

The Funnel of Mystery:
1万件が143件に収束する「1.4%」の謎

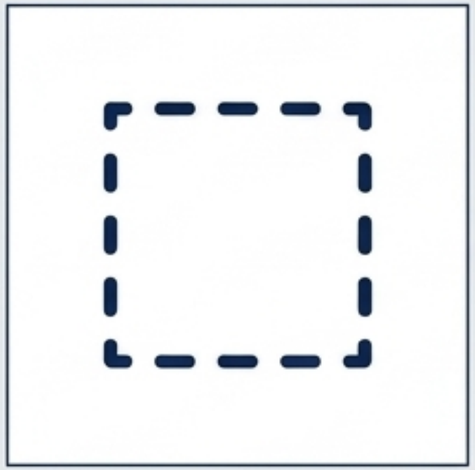


コア・インサイト:
出し直し分からの登録率は14.7%だが、
全体からの登録率はわずか1.4%。
2023年9月の第1波からの直接登録は、
2026年7月時点で『0件』。

Gemini Notebook

The Refiling Engine: 制度の限界を突く権利化ハック

Step 1: The Placeholder（場所取り）



概念的で広い特許を大量出願（発明の名称「システム」）。審査請求はせず放置。

Step 2: Observation（技術動向の見極め）



最大1年間、自社の事業展開や世界のAIトレンド（生成AIの進化）を観察。

Step 3: Refiling（国内優先権による出し直し）



有望な技術（971件）のみをピックアップ。具体的な実施例を補充して出し直し。

Step 4: Accelerated Exam（早期審査）



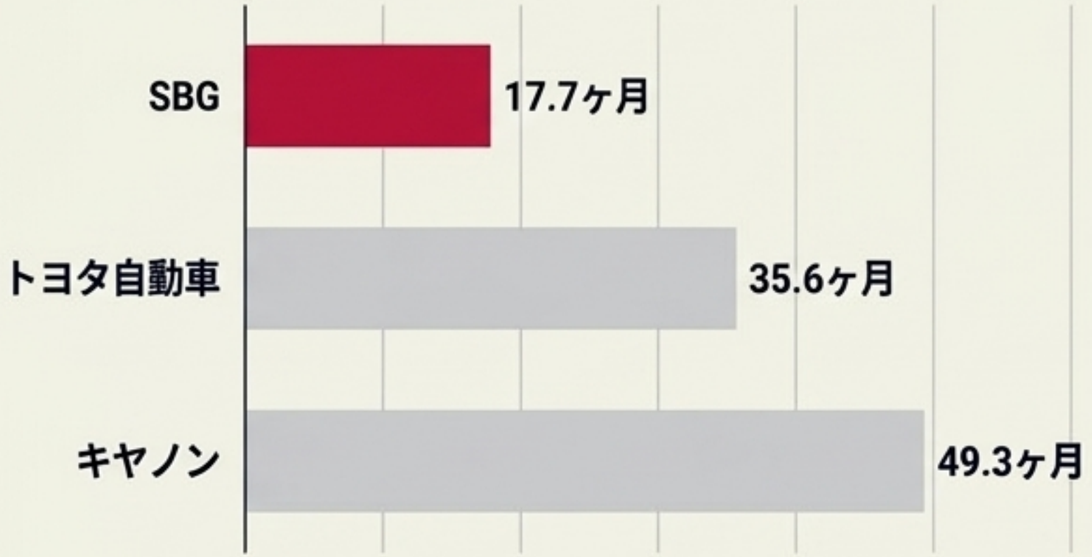
選別された精鋭特許だけを、早期審査を使って超高速で登録へ導く。

戦術の構造: 広く網を張り（Step1）、後から中身を詰めて（Step3）、最速で獲る（Step4）

Gemini Notebook

Speed vs. Competitors: 驚異的な「タイム・トゥ・パテント」

出願から登録までの期間（中央値）



競合の半分のスピードで確実な権利化を実現。

ケーススタディ: 特許第7887930号の追跡

[Start] 出し直し（国内優先権を主張）

↓

[+3ヶ月] 早期審査請求

↓

[途中] 拒絶理由通知（2回） + 権利範囲の補正

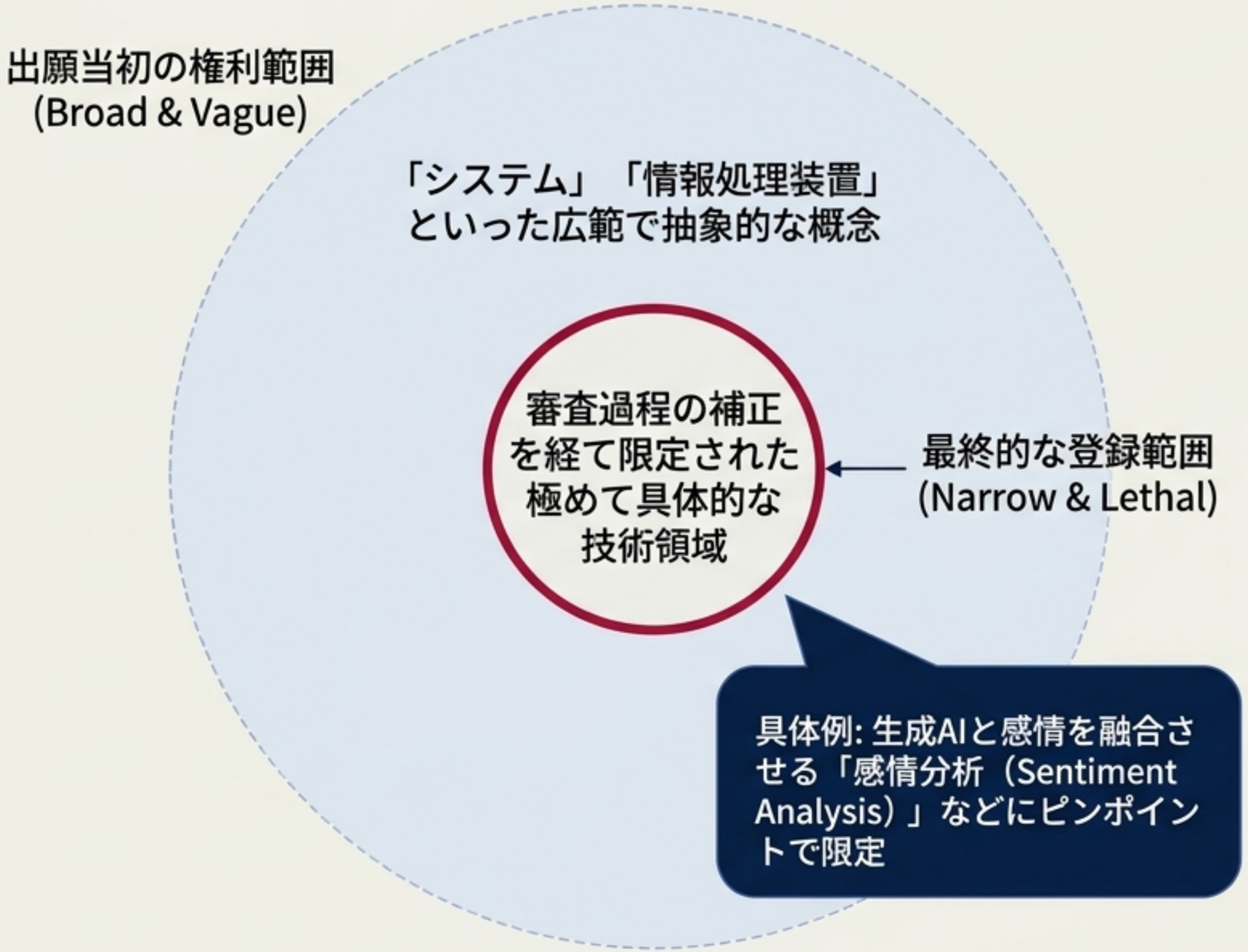
↓

🎯 [+21ヶ月] 登録完了

結論: 全件を急いでいるわけではない。
『選択された一握りの案件 (全体の1.4%)』にリソースを集中投下し、武器化している。

Gemini Notebook

Quality & Scope:「広く浅く」から「狭く鋭く」への変貌



戦略的意図（Strategic Intent）

- **網より杭:** 広範な独占権（網）を狙うのではなく、自社サービスの防衛に直結する権利を確保。
- **無効化の回避:** 意図的に範囲を狭めることで、他社からの無効審判に耐えうる「**絶対に無効化されない強い権利（杭）**」を造り出す。
- **クロスライセンス:** 将来の他社との交渉において、**確実な武器**として機能させる。

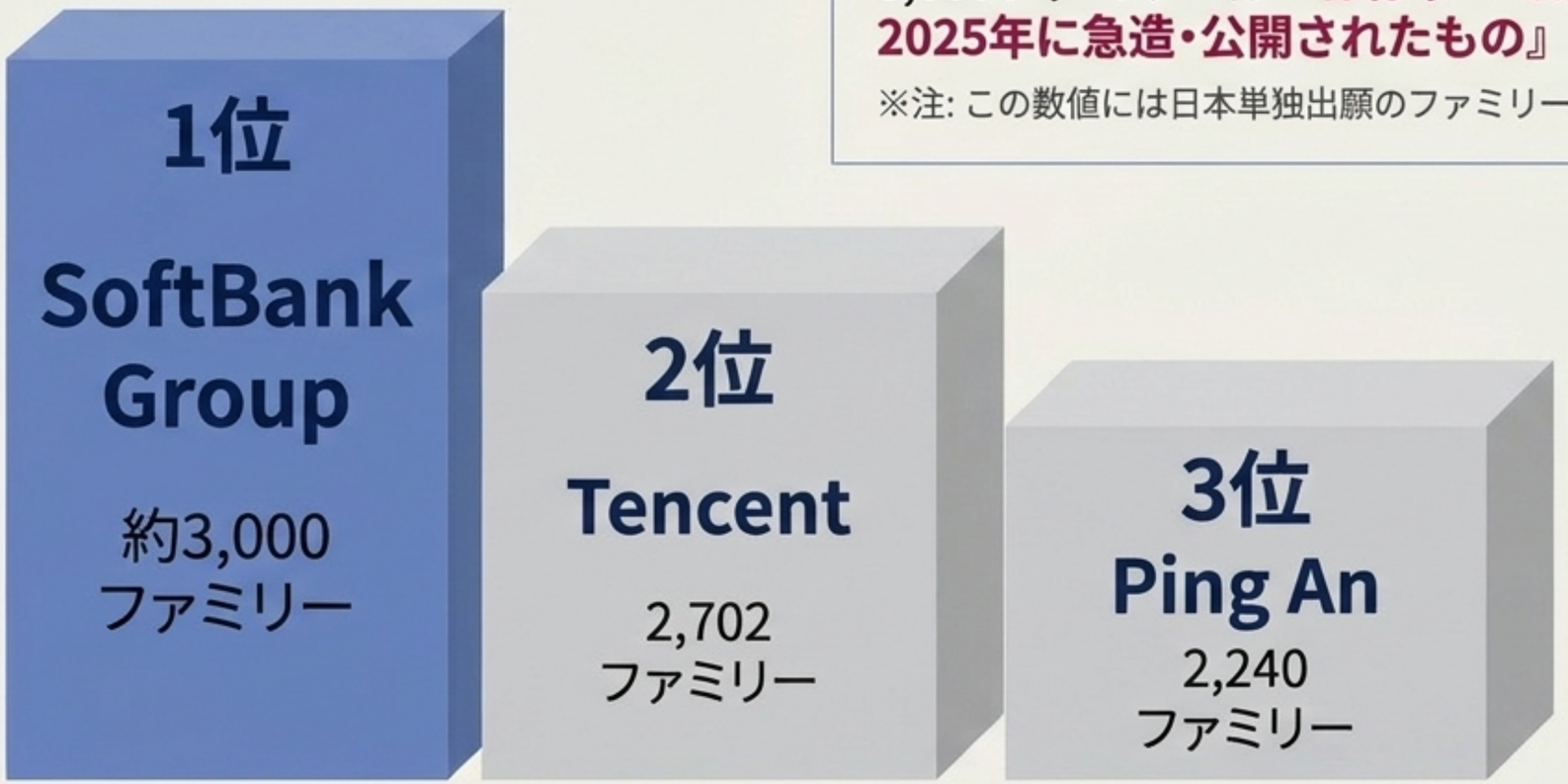
Gemini Notebook

Global Dominance: WIPO生成AI特許ランキングでの圧倒



The Anomaly (質の特異性):
TencentやPing Anが長年かけて蓄積したポートフォリオであるのに対し、SBGの約3,000ファミリーは**『ほぼすべてが2024〜2025年に急造・公開されたもの』**である。

※注: この数値には日本単独出願のファミリーも含まれる。



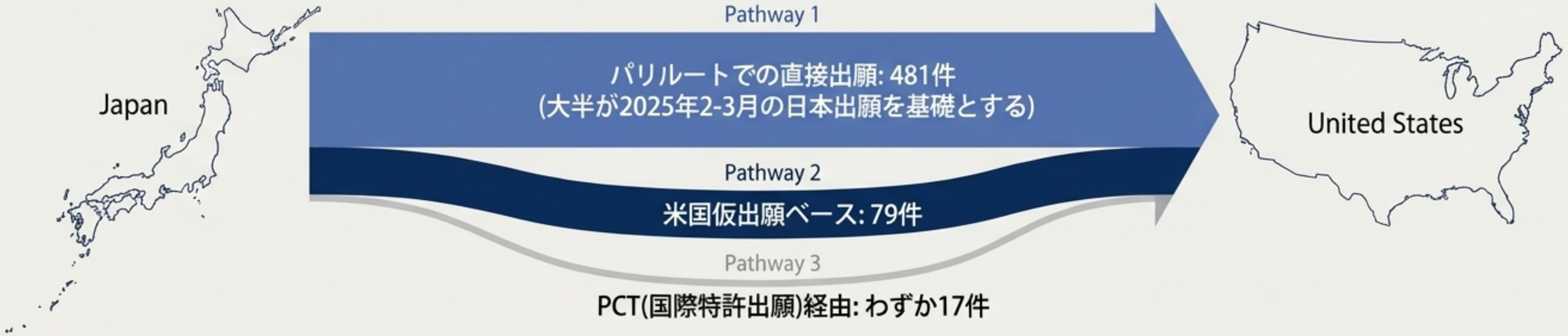
Gemini Notebook

The US Invasion Route: パリ条約ルートによる米国への直接展開

The Surge (米国での急展開):

2026年7-10月のわずか13週間で、AI関連の米国公開出願が **566件**（全出願人中1位に躍り出る）。

※前年同期はわずか1件。



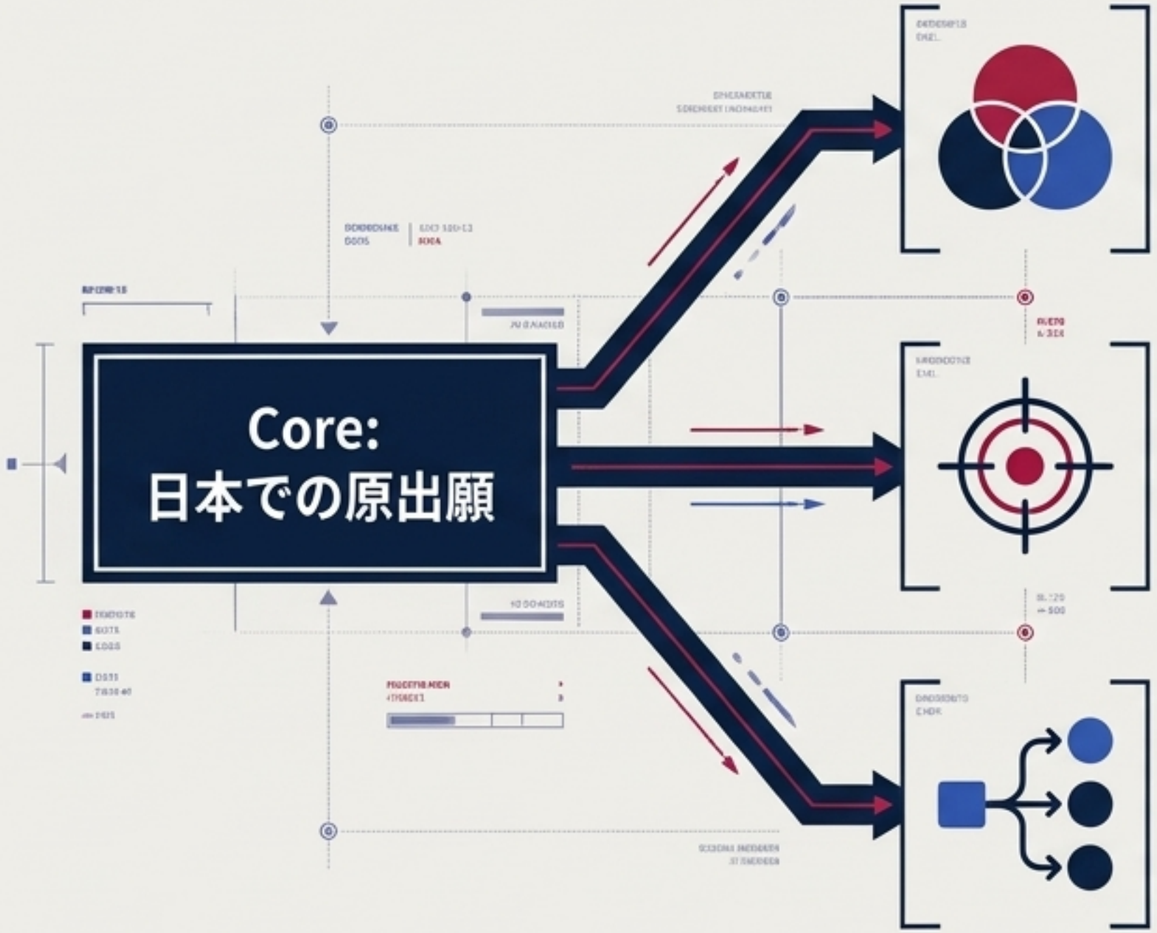
FORENSIC SIGNATURES (法医学的署名)

タイムラグ: 日本出願から米国出願までの期間の中央値は 359日。

The Signature: 米国出願でも518件の発明の名称が「**System**」。

Gemini Notebook

The China & PCT Extension: 多角化するグローバル知財網



日米中 3カ国ファミリーの形成

[US20260112288A1] - 日米欧の伝統的ルートではなく、発明の名称を'System'としたまま『日本・米国・中国』の3極で特許網を構築する事例。

中国市場へのダイレクト展開

[CN122797505A] - 優先日2025年3月19日。巨大なAI市場である中国への直接的な知財布石。

PCTから米国への継続出願

[PCT/JP2024/029820] → [US20260189394A1] - 単なる直接出願だけでなく、PCTルートを通じた高度な継続出願戦術も並行稼働。

結論: 国内での単なる「量産フェーズ」は終了。狙いすました特許群を戦略的かつ多角的にグローバル展開する『フェーズ2』へ完全移行済み。

Gemini Notebook

SYNTHESIS: The Dual-Blade Strategy（盾と矛の知財戦略）



二段構え

【盾：Defensive / Broad】（全体の98%超）

役割　他社の権利化阻止
(先行技術化による防衛的公開)

特徴　万単位の大量出願。広い概念（System）。
審査請求は行わず、みなし取下げによる
『放置』を前提とする。

【矛：Offensive / Narrow】（極少数・約1.4%）

役割　自社事業（感情AI等）の絶対的保護と、
将来のクロスライセンスの武器

特徴　国内優先権を活用した内容補充。
極度に限定された権利範囲。
早期審査による超高速登録と、
米国・中国へのダイレクト展開。

Gemini Notebook

The Wave 1 Cliffhanger: 沈黙する9,000件の行方

Target: 2023年9月出願の『第1波』8,951件

Deadline: 2026年9月19日～29日（審査請求期限 到達済み）

Status: UNKNOWN

（Pending JPO Publication）

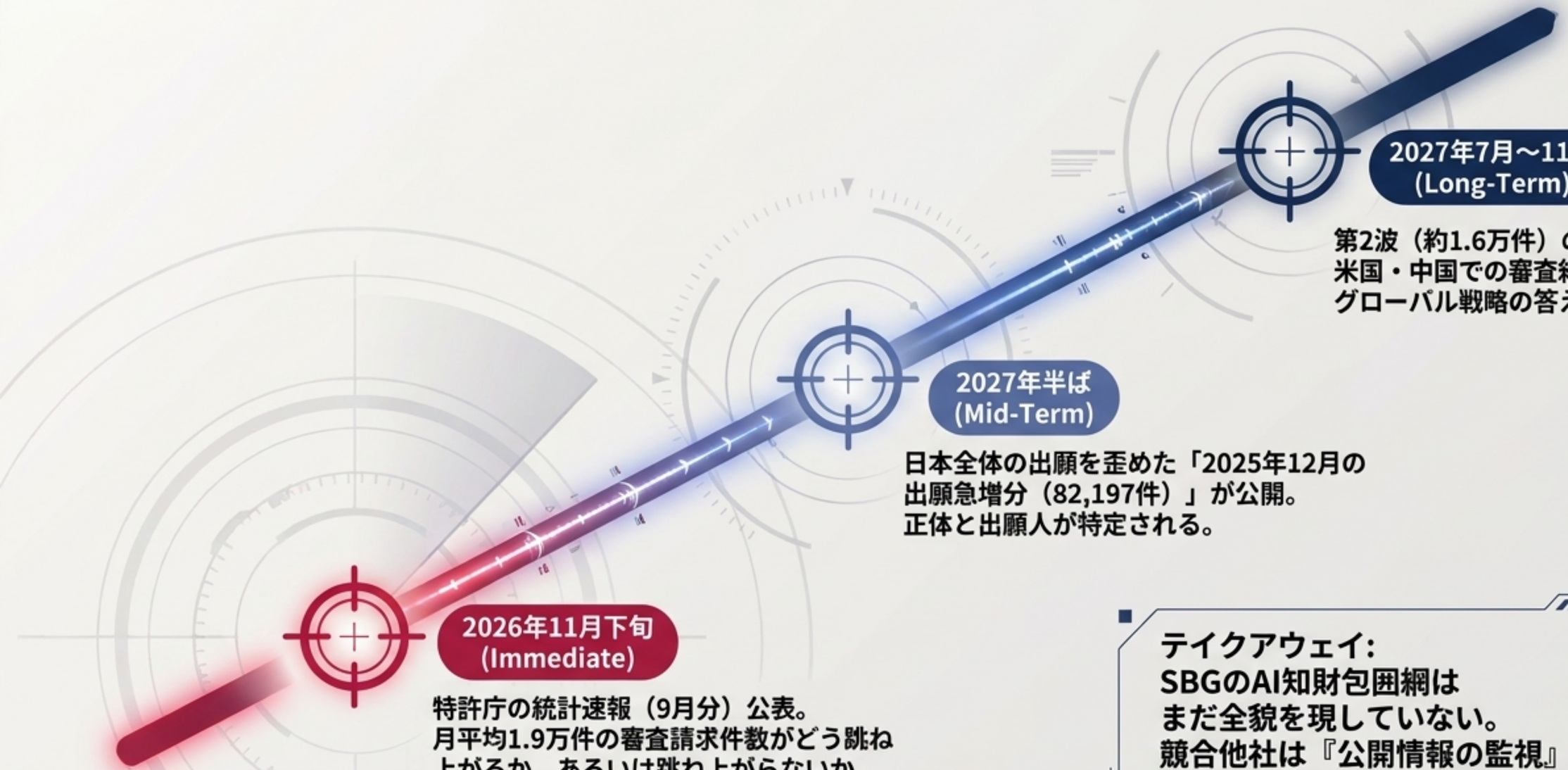
Hypothesis（仮説）

2026年7月時点で、第1波からの直接登録は0件。現在審査に回っているのは、出し直し分（971件）が中心である。

結論予測：期限を迎えた約8,900件の大半は、意図的に審査請求されず『みなし取下げ』となった可能性が極めて高い。つまり、防衛的公開（盾）としての役割を完了し、特許庁のブラックボックスの中へ消えた。

Gemini Notebook

Radar 2027: 業界が注視すべきマイルストーン



2026年11月下旬
(Immediate)

特許庁の統計速報（9月分）公表。
月平均1.9万件の審査請求件数がどう跳ね上がるか、あるいは跳ね上がらないか（みなし取下げの証明）が判明する。

2027年半ば
(Mid-Term)

日本全体の出願を歪めた「2025年12月の出願急増分（82,197件）」が公開。
正体と出願人が特定される。

2027年7月～11月
(Long-Term)

第2波（約1.6万件）の審査請求期限。
米国・中国での審査結果の顕在化とグローバル戦略の答え合わせ。

テイクアウェイ:
SBGのAI知財包囲網はまだ全貌を現していない。競合他社は『公開情報の監視』と『自社出願の防衛戦略』の再構築が急務である。

Gemini Notebook

Appendix / データソースと&留意項

Primary Data Sources

- IP Force「ソフトバンクグループ株式会社の特許登録一覧」
- パテント・インテグレーション「特許出願動向・競合比較」
- WIPO（World Intellectual Property Organization) AI Patent Reports
- JPO（特許庁）「特許出願等統計速報」
- Burbage Law, PatSnap Eureka, Google Patents

Expert Analyses

- パテントレンジャー（note)
- 栗原潔（Yahoo!ニュース エキスパート）
- アッシュ（note)
- 桑垣衛（オンダ国際特許事務所）
- taku_sid (note)

Disclaimers（留意事項）

- 本資料内の集計件数は、データ基準日（出願年/公開年等）や情報源によって差異が生じ得ます。
- SBGの戦略的意図に関する記述は、公開データに基づく専門家の推論を統合したものであり、同社からの公式発表ではありません。
- 2026年11月1日時点での情報に基づき作成されています。

Gemini Notebook